

何気ないもの 味わい深い物

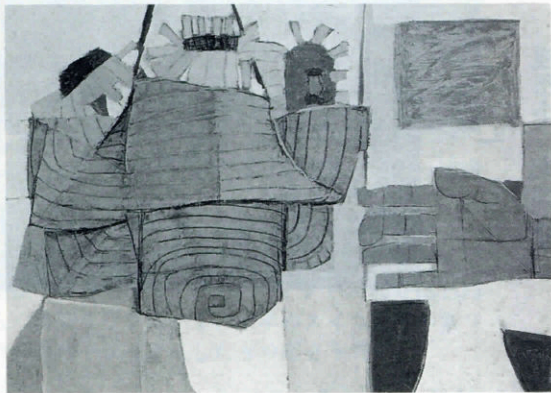
一九五〇年代の香月泰男は、「台所作家」の異名をとるほど、食卓や室内のありふれた静物を多く描いている。なぜこうしたものでばかり描くのかという質問に、「アトリエと台所がくっついていて、から」と冗談めかして答えている。もちろんそう簡単なことではない。

香月泰男は何気ないものの中に造形的なおもしろさや美しさを見いだして、味わい深い作品にすることに卓越していた。捨てられた木切れや空き缶などで「おもちゃ」と呼んだ人形や動物をたくさん作っているのもそのことをよく示している。

「香月泰男展」から

麦藁帽子の中の向日葵

1954年 45.5×65.0cm



限られた材料で料理の工夫をし
ながら、「毎日食事のように仕事を
すること」を信条とし、ことさ
ら気負わず描き続ける一人
の画家の姿がそこにある。
しかしまた、忘れようも
ない「シベリア」を胸のう
ちに抱えた画家の目には、
食卓の魚や肉でさえ「人間
のいけにえ」に見えること
があったのである。

「麦藁帽子の中の向日葵」
は、食べ物とは違うのでそ
こまで感じることはないだ
ろうが、何気ないものを見
る目は同じだろう。手など
がわざと画面から途切れて
描かれているところに独特
の構図の妙がある。

(下関市立美術館・濱本聡
学芸員)

(協力 山口新聞社)

高校時代の恩師から香月さんの絵を教えられて三十数年、機会がある
たびに大小展覧会や展覧会に出かけて見てきました。この美術館、一度来たの
と思っかけて、やがて今夏、来れます。三隅の町に調和した美しい美術館
です。現在は兵庫県に引っ越していますが、生まれは山口県下関市東の2、原工
に軒するまっかにもあります。知事と続けますが、下関市立第一幼稚園を
卒業しました。単身中は大津郡向津見村(現、油谷町)の緑政
疎開してました。シベリア・シリーズをみると、泣かして、困ります。
木下至、「ゆき子」などの絵をみると、おもしろい、ほ、とします。この、今の
美術館の雪国展、持ち続けて下さる所、続けます。

平成7年(1995年)8月23日(水) 香月泰男展 山本 廣美

The message from

Y. KAZUKI

Museum of Misumi

~美術館からのメッセージ~

『自由帳』から

美術館では、ご意見やご感想をお聞
きぎする「自由帳」を置いています。
今月は、その中から抜粋し、書かれ
たままの原文で掲載します。

主人の故里、三隅町、香月先生のことは、所にかれ、
聞いて居りました。今回、初めて、「本物」とお見え
て嬉しかったです。全作品が見れなくて残念
です。とても静かな、そして暮ら着ける美術館でした。
H. 7. 8. 22
横浜市 六川

フリキの人物がとしてもかわいらしかったです。
私が一番好きになつたのは香月さんのアトリエです。
なんとなく温かみがあったからです。私の一番好きな
絵はこんな頃の絵で、色がかわかれています。絵が
シベリアの絵は、とても好きです。人のくるし
みかそのままつたわってくるからです。人のくるし
しにかし私は、絵やものをとて好きになつ
て、しりました。
下関市 塩谷直子(五年)
フリキの人物がとてもかわいらしかったです。塩谷優衣。(小三年)

三隅町の田舎(?)の町には、いろいろな建物と
建物と内容(おもしろい絵、おもしろい絵)に感動して
います。いつかまたは思い、おもしろい絵、おもしろい絵
次回はおもしろい絵、おもしろい絵、おもしろい絵。
実現できればよいと思、おもしろい絵。
広島県長谷町1-18 千田祥(小学校教員)

19日(月)に2度目。(8月に2回目)
と2度来たかった。つれづれは、おもしろい絵。
絵は勿論おもしろい。建物も美しい。
あったか、やさしい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。
美術館の絵、おもしろい絵、おもしろい絵。
香月さん、おもしろい絵、おもしろい絵。
195. 8. 29 << 広島・谷本光子 >>